下市町教育委員会だより

令和2年10月1日 第3号
教育長　小谷 隆男

※ このたよりは、教育委員会から町民の皆様への、町教育全般に関する情報発信資料です。

新校舎のシンボル「風の塔」

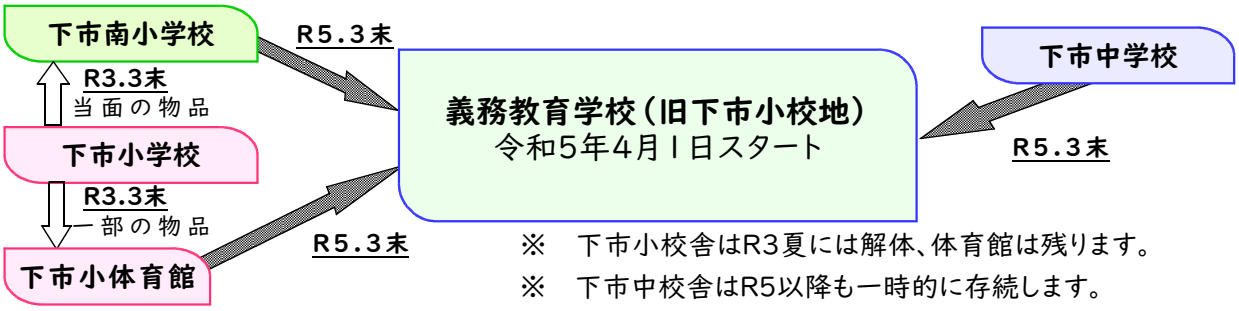
義務教育学校校舎の設計図が概ね出来上がりました。外観図を見ると、校舎中央の「風の塔」と名付けられた三角屋根がとても印象的です。グラウンド側に突き出た部分はテラスとガラス窓になっていて物見台のようです。吹き抜けの階段や開放感のあるテラスを風が通り抜けます。屋根の上には飛行機（風力発電）のようなモニュメントが設置され、まさに「風の塔」です。

また、屋上には太陽光発電施設があったり、町内を見渡せる眺望スペースがあったりと、自然との一体感を感じる設計になっています。校舎内には、地域開放スペースがあり、シンデレラが降りてきそうな大きな中央階段は、生徒が腰掛けたり、くつろいだりできる設計だそうです。R3年夏には建設が始まります。実物は、設計図とは多少変わることもありますが、素晴らしい校舎になりそうです。

現在中学生の方は卒業後の開校となるので少し残念ですが、もちろん母校ですのでいつでも訪ねてください。今年度末と令和5年3月の2回の大がかりな引っ越しや、建築時の騒音など、町民の皆様には何かとご迷惑をおかけいたしますが、ご理解・ご協力よろしくお願いします。

「義務教育学校」…H28の法改正で生まれた新しい学校の形。1～9年生が同一校・同一方針・同一教職員チームによる一貫教育を受ける。教員数は増え、きめ細かい対応・教科専門性を生かす授業が可能。

【学校備品などの引っ越し時期】



※　下市小校舎はR3夏には解体、体育館は残ります。
※　下市中校舎はR5以降も一時的に存続します。

生徒の来ない授業日 ～下市中オンライン授業の試み～

今年の8月31日、下市中では午前中授業がありました。でも、生徒はほとんど登校しませんでした。えっ、どうしたの？と思うかもしれません。でも大丈夫です。先生方は3学年とも授業を行いました。この日、中学校はオンライン授業の日だったのです。家庭と教室をネットでつなぎ、朝の会、授業(3時限)、終わりの会まで行いました。家にいるクラスメイトの顔が画面で集合です。多少の課題はありましたが概ね成功です。臨時休校中のことを思えば、ここまでたどり着いた中学校の先生方の苦労に頭が下がります。この取組は県内公立中学校でも斬新なもので、一歩先を走っています。

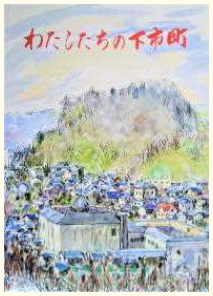
また、今月から教室には一人一台のパソコンが配備されます。家庭の機器等の状況に違いがあるので、細かい配慮は必要ですが、今後様々な面での活用が大いに期待されます。

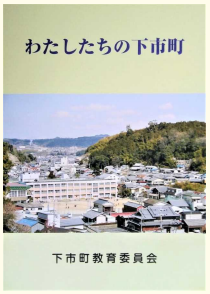
NEW！「下市町文化財」写真パンフレット

下市町内には、国の重要文化財として指定されているものが2点あります。一つは龍洞院の阿弥陀如来像（平安時代後期・阿知賀）で、もう一つは瀧上寺の九品来迎図（鎌倉時代後期・善城）です。その他に県や町が文化財に指定したものも全部併せると37点になり、大切に保護されています。日本最初に始まった商業手形「下市札」もその一つで、観光文化センター2階資料室に展示しています。古文書や天誅組関係、発掘土器など、歴史的に意義深いものも展示していますので、お気軽にお越しください。

また、このたび文化財保護委員のご協力を得て、「下市町の文化財」（上・表紙写真）をリニューアルする運びとなりました。新しく指定された文化財を追加し、写真や説明を見直しA4サイズにしています。機会があれば、町民の皆様に見ていただきたいと思います。教育委員会事務局までお問い合わせください。

ふるさとへの思いを育む　～郷土学習の副読本を改訂～





皆さんは「わたしたちの下市町」という本を覚えていますか？それは、小学校3～4年生で学習する郷土学習の副読本で、ずいぶん昔からこの名前が使われています。2つの写真は、30年前の表紙(左)と、5年前から現在の表紙（右）です。この副読本は、教科書出版会社がつくる通常の教科書とは違って、小学校の先生方が取材をし、児童が興味をもつように苦労して作成されています。しかも、少し年月が過ぎると、写真に写る建物などがなくなってしまったり、産業や状況が変わってしまったりするので、数年に一度新しく見直す必要があります。ちょうど今、来年4月の改訂に向けて、その作業が行われているところです。いつの日か、子どもたちが「下市町」の未来を築く立派な大人になってくれることを夢見ながら、先生方は一生懸命この本を作っておられます。

「あの校舎は今」②　旧広橋小学校

海抜453m、広橋峠の頂上にある広橋小学校。木造校舎で夏は比較的涼しく、小高い運動場から見る遠く金剛・葛城の山々、眼下の大淀・下市の町並みには心が洗われます。この素晴らしい環境が、高名な詩人を生み出す土壌となったのでしょう。ただ、冬場となると水道の凍結や雪など、当時の教職員の思い出話は尽きません。PTA、教員、地元が一緒になって守り続けた赤い屋根の学校は、平成11年3月に惜しまれながら125年の歴史を閉じました。

現在、この校舎はコンサートや催し物などのコミュニティスペースとして活用され続けていますが、多くの「梅の子」たちの思いとその伝統は、新しい義務教育学校が受け継いでいきます。

前回の9月号に、丹生小学校の記事を載せたところ、町内のある女性からお電話をいただきました。若い頃に2年間勤めた校舎でとても思い出深いとのこと。解体されるのを知って最後に見に行くことができると感謝の言葉をいただきました。すがすがしい気持ちになり、感謝するのはこちらの方でした。

ご意見・お問い合わせは…
下市町教育委員会事務局
☎ 0747-52-1711
✉ kyoi@town.shimoichi.nara.jp